

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 195 号	氏名	足立 智彦
学位審査委員	主査 関根 一郎 副査 田口 尚 副査 永安 武		
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 膵胆管合流異常（以下 PBM）において、摂食後や慢性的な胆汁鬱滞を併せ持つ場合、膵管内への胆汁逆流が起こり得るとされているが膵発癌との関連性については指摘されていない。今回ハムスター膵管内胆汁逆流モデルを作成し、膵管内への胆汁逆流が膵発癌に及ぼす影響を探ろうとした研究目的は明確である。</p> <p>2. 研究手法に関する評価 ハムスターを用いての膵管内胆汁逆流モデル（A群）、膵管内胆汁非逆流モデル（B群）の作成、主膵管上皮の細胞増殖能の検討、さらに発癌剤による膵癌の発生頻度、組織学的差異、細胞増殖能の検討など研究手法は妥当であった。</p> <p>3. 結果考察の評価 胆汁の膵管内逆流により主膵管内に IPC(intraductal papillary carcinoma)が高率に発生することが明らかとなった。原因として胆汁逆流による膵管上皮の細胞回転の亢進の関与が示唆された。加えて、ハムスター IPC はヒト IPMN(intraductal papillary mucinous neoplasm) と組織像において類似性を示していた。これ等結果より、本モデルはヒト IPMN の基礎研究に有用であることが明らかとなった。</p> <p>以上のように本論文は膵管発癌機序の解明に貢献するところ大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			